

- ② 主な内容
- 教育相談の問題点
  - 事例研究法
  - 適応性診断テスト
  - グループ・カウンセリング
  - ロール・プレーイング
  - 教育相談の進め方

③ 講師

- 福島県中央児童相談所心理判定員 内山 清一
- 桜の聖母短期大学助教授 樋口 勝也
- 教育センター担当所員

(3) 高等学校教育相談講座

① 期日・人員等

- ア 10月5日～10月8日
- イ 高等学校教員 20名

② 主な内容

- 学校における教育相談
- グループ・カウンセリング
- 交流分析と自律訓練法
- 思春期の精神障害
- 事例研究法
- 心理診断法

③ 講師

- 福島大学教育学部教授 工藤 正悟
- 福島県精神衛生センター所長 上野 文彌
- 千葉県教育センター教育相談部長 向後 正
- 教育センター担当所員

## 第4節 教育相談に関する事業

### 1 幼児・児童・生徒・父母との教育相談

- (1) 幼児および低学年児童が持つ問題行動の矯正治療には、原則として遊戯療法を用いているが、ケースによっては、絵画療法、行動療法等の心理療法を併用している。
- (2) 高学年児童および生徒に対しては、カウンセリングを主として用い治療に当たっているが、自律訓練法・自律療法行動療法等も実施している。
- (3) 父母に対しては、子供の持つ問題行動の治療矯正の効果を高めるため、親子関係の改善、しつけや育児の正しいあり方を指導助言すると共に、その定着化を図るべく心理療法を実施している。

### 2 教職員への相談・助言

- (1) 来談した幼児・児童・生徒の問題行動の矯正治療の効果を高めるために、それらの子供たちの担任教師と密接な連絡をとり、指導助言の徹底と協力をお願いしている。
- (2) 各学校現場に対し、来所した子供たちの学校での行動を観察した資料の提供を依頼し、共に指導の方法を研究し合うようにしている。
- (3) 必要に応じて、幼児、児童、生徒の知能検査、性格検査等の諸検査を実施し、その結果を学校に連絡している。
- (4) 学校現場で生ずる教育相談に関する諸問題を理論的に研

究解明し、学校からの質問に答えている。

## 3 教育相談の実施状況

### (1) 相談者の延べ人数

| 年度     | 幼児  | 小学校 | 中学校 | 高校生 | 一般 | 教員 | 計   |
|--------|-----|-----|-----|-----|----|----|-----|
| 昭和51年度 | 284 | 276 | 128 | 59  | 7  | 32 | 786 |

### (2) 相談者の内容別延べ人数

| 内容別<br>年度 | 面接相談     |          |          |          |          | 書電<br>信話 | 計   |
|-----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|-----|
|           | 知能<br>学業 | 性格<br>行動 | 身体<br>神経 | 進路<br>適性 | 教育<br>一般 |          |     |
| 昭和51年度    | 131      | 132      | 479      | 12       | 32       |          | 786 |

### (3) 相談者の地区別延べ人数

| 地区別  | 県北  | 県中  | 県南 | 会津 | 南会津 | いわき | 相双 | 計   |
|------|-----|-----|----|----|-----|-----|----|-----|
| 相談者数 | 655 | 102 | 6  | 13 | 0   | 6   | 4  | 786 |

### (4) 教育相談の現状と課題

教育相談の来談件数が、年々増加していることは本来あまり望ましいことでないかも知れない。しかし、教育相談の重要性が学校現場で認識され、子供の心にまで目が向けられてきた結果、相談件数の増加につながってきたとすれば、それは大いに意義があることである。なおその内容の概要は次のとおりである。

幼児の相談では、自閉の主訴が最も多く、矯正治療の過程を通じて、親と子の肌の触れあいと、母親の愛情に満ちた話し掛けが、何ものにも勝るものであることを痛感した。

小・中学生の相談では、登校拒否の件数が依然として多く、家庭のしつけの失敗―過保護、過干渉のしつけ―が子供の自律性を阻害していることを再認識した。特に5月の連休後等に断続的に欠席し、腹痛、頭痛、吐き気を訴える者については登校拒否の疑いを持ち、十分な観察と指導が必要である。

高校生の登校拒否では、学業不振と精神的な不安が共存している例が多いので、友人からの孤立化の排除に努める配慮が最も大切である。

## 第5節 教育資料

### 1 教育資料の収集・整備

教育に関する専門図書および教育資料センターとしての機能を果たし、当センターにおける研究研修の充実発展と県内各学校や地域における教育実践、研究活動をいっそう推進するため、教育図書および教育資料の収集・充実に努力した。

#### (1) 教育図書・教育資料の収集・整理・保管

教育図書については、本年度 553冊の増加を図ることができ約1万5千冊の蔵書数となった。

教育資料については、特に県内各校の研究物の収集に努力し、それらの研究報告書と全国各教育機関や研究機関等